

山口県やかりの女性を紹介

人財彩時記

女性社寺建築彫刻師

やまもと あやみ

山本 歩まん

「木彫り」に興味を持たれたのはいつからですか。

最初のきっかけは、父親に教えてもらった木彫りでした。小学生の時の夏休みの宿題に何をしようかと迷っていると、木彫りはどうかと父が勧めたのです。材料を選んでもらい、下絵を描いて、道具を使って彫っていきます。父は最初から最後までしっかりと教えてくれました。その作品は自分でも気に入っていましたし、先生からも褒められました。そこが私の木彫りのスタートだったかもしれません。

大人になって木彫り教室に通い始めると、やはり楽しくて夢中になりました。その後、社寺建築師の方に弟子入りして、アシスタントをしながら修行しました。工房をはじめめる直接のきっかけとなったのは、師匠から免状をもらい、独立することになったからです。それまで木彫りで何かしようと思ったことはありませんでした。

彫刻師の女性は多くないと思います。女性ゆえの苦勞などについて聞かせてください。

教室に通い始めて、すぐに面白いと思うようになります。そしてどんどん腕も上がります。時には先生の代わりをするようにもなってきました。自分の教室を開くことになりました。

現在、彫刻師として社寺仏閣の仕事をしながら、教室では90人の生徒さんに木彫りを教えています。生徒さんとの会話はとても楽しく、いろいろな話をしていきます。日常に何か問題があったりする時も、おしゃべりをしながら作業をしていると、心が元気になるし、また仕事に打ち込むことが出来ます。

家事もおろそかにはできませんので、期限のある仕事では食事の時間も惜しくいらいます。そんな時は家族に協力してもらっています。

この仕事は力が必要です。女性といえども、基本的に仕事ができる体力がないと難しいです。私は学生時代に剣道をやっていました。毎日竹刀を振ったおかげで握力も女性としてはかなり強いです。腕相撲でもそう簡単には負けません。

これからの抱負は何ですか。

平成7年、周防国分寺(防府市)の金堂の裏にある「聖天堂」再建の仕事をさせていただきました。一年半かけて聖天堂に百か所以上の装飾彫刻を打ち込むことができ、本当に素晴らしい経験となりました。私自身、復元というより創作の方が、はるかにモチベーションが高くなります。もちろんルールはありますが、その中で自由に彫らせていただくというのは本当に素晴らしい時間です。最近はこのような仕事が少なくなってきました。少し残念に思っていますが、機会

があればまたぜひ挑戦してみたいです。

彫刻は、木の種類や、その形、育ち方で彫り方も変わって来ます。自然のバランスは本当によくできていて、植物も生物もみな、それぞれが使命をもって生まれていると感じています。そのような自然の持つ素晴らしい造形を、彫り出すというのが私たちの仕事だと思っています。

実は今、新たに酒米作りにも取り組んでるところです。有名なブランド米「山田錦」を育てて県内の酒造メーカーに納めています。普通のお米を作ったこともないのに、いきなり「山田錦」ですからね。でも勉強しながらとても楽しいものです。

彫刻も米作りも、難しいから面白い。そして、それがまた次への挑戦となり、長く続けることができるのだと思います。



もしも、目の前の女性が誰だかわかられないままお会いしたら、この女性が鑿を打ち、社寺建築の装飾部分を彫りだしていく人とは分らないでしょう。女性が鑿を打つ姿というのはそう簡単に想像できないかもしれません。山本さんご自身も、作業をしながら作品の紹介をしていると「先生はご不在ですか」「助手の方ですか」などと声をかけられることが多いと苦笑いされていました。工房「椿庵」でお話を聞かせていただきました。

(取材・原田 茂、有田)